

2020年9月25日

令和2年度9月 学位記授与式学長告辞

九州工業大学長 尾家祐二

本日、ここに令和2年度の学位記授与式を挙行できますことは、本学にとりまして大きな喜びであります。栄えある門出を迎えられました皆さんに、まずもってお祝い申し上げます。また、この日まで修了生を物心両面から支えてこられました保護者、御家族の皆様のお喜びはひとしおと拝察し、衷心よりお祝い申し上げます。

この度は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大によって、私達の様々な社会活動が大きな影響を受けました。この半年間、皆さんが研究活動を行う中で、教員や仲間と直接会って十分な議論をすることもできず、実験等を行う際にも、感染防止に配慮しなければならないなど、大変な苦勞をされたと思います。そのような中において、今日の学位記授与式を迎えられました皆さんに、深く敬意を表します。

この門出の機会に、過去を振り返り、その過去から学び、未来に向かう姿勢について一緒に考えたいと思います。

皆さんがご存じのように、近年において科学技術は大きく進展し、それらが驚くほどの速さで社会に浸透しています。「農業改革の影響が完全に社会に及ぶまでには1000年、産業革命の場合は数100年かかったが、デジタル革命はわずか数10年である」[1]とされています。まず、ネットワークについて、振り返ると、今からおよそ50年前の1969年にその後インターネットに発展する計算機ネットワークであるARPANETの実験が米国の4つの大学の計算機の間で行われました。そして、その実験が行われた20年後の1989年には早くも、米国において、世界初の商用のインターネットサービスプロバイダーISPが設立されました。皆さんの多くは1990年代生まれと拝察しますが、その1990年代に、各国で一般の人たちがインターネットサービスを利用できるようになりました。たった4台の計算で繋がったネットワークであったものが、その約50年後の2018年には、39億人（世界人口の51%）が利用するインターネットに発展しており、2023年までには利用者は53億人（世界人口の66%）に達するとCisco社は予測しています[2]。

一方で、コンピュータについて振り返ると、およそ 50 年前の 1971 年にインテルが世界初のマイクロコンピュータ 4004 を開発しました。日本の電卓メーカー用に作成された 4 ビットマイコンです。なお、インテルはその数年前である 1968 年に設立されたばかりの若い企業でした。それから 20 年も経たない 1989 年には A4 ファイルサイズのノート型パソコンが発売され、その後も、半導体デバイス技術が飛躍的に向上し、今日、私たちは、手のひらサイズのスマートフォンを日常的に使用しています。そして、今後、スマートフォン、コンピュータだけでなく、家電を含め様々なものがネットワークで繋がっていくことでしょう。

これらから学べることは数多くあると思います。その一つとして、技術が生み出され、社会に浸透するためには、開発者の知的好奇心と挑戦が必要であり、さらには、その挑戦を継続するための仲間と、その価値を見出し、共感する人達が必要であったと理解できないでしょうか。そして、夥しい数の、多様な人達がこのデジタル革命に関与していることを想像することが大切だと思います。

いま、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、人の行き来が困難になっています。未来は、いつも不透明です。希望にあふれる未来のためには、知的好奇心を絶やすことなく、何かに挑戦し、必要に応じて修正することを繰り返し行うことが必要です。そして、このような時であっても、互いが孤立せず、排他的にならず、互いを尊重しあって、多様な知恵を出し合う活動が必要になります。皆さんには、仲間と共にこの難局を乗り切って欲しいと願います。

最後になりますが、皆さんが、九州工業大学における多くの良き出会いを財産として、今後活躍されますことを祈念し、皆さんの栄えある門出を心から祝福申し上げ、告辞と致します。本日は、誠におめでとうございます。

参考：

[1] 「2050 年の技術-英『エコノミスト』誌は予測する」文藝春秋刊、2017

[2] Cisco Annual Internet Report (AIR)

https://www.cisco.com/c/ja_jp/solutions/collateral/executive-perspectives/annual-internet-report/white-paper-c11-741490.html